

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
県	有形民俗文化財	燈火用具 燈台2、つり燈台3、燈明皿7、燭台3、手燭2、手さげあんどん5、あんどん7、紙燭1、ちようちん8、高はりちようちん3、かんどう1、つりどうろう1、どうろう1、盆どうろう1、火打箱1式(火打箱1、火打金1、火打石1)、つけ木1束、おがら1束、松やにろうそく1束、くづろうそく1束、油しほり器1式(ふね1、す1、石うす1、じょうこ2、しゆるぼうき1)、油つぼ3、油さし1、ちようちん箱1	どうかようぐ	63点	山県郡北広島町有田	昭34.1.29			「雲北の染色用具および草木染めコレクション」を収蔵している雲北民俗収蔵庫のもう一つの著名なコレクションで、土製の肥松(こえまつ)燈台や提灯、あんどんなど燈火の歴史を知るための資料としてだけでなく、それらに關係する火打箱や油しほり器などの用具も収蔵されており、雲北地方の「あかり」について研究するための格好の研究材料となるものである。		
県	有形民俗文化財	久井町の節句どろ人形	くいちようのせつくどろんぎよう	246点	三原市久井町江木 久井町民俗資料館	昭39.10.3	土製の人形		旧久井町内で収集された土製の人形のコレクションで、江戸時代後期の文政年間(1818～1829)から大正10年(1921)頃までのものである。 明治20年(1887)頃から初節句を迎える子どもの将来を祝福するために親類や知人から土人形を贈与する慣習が盛んになったと言われる。 人形の生産地は三次、三原地方が多く、稀には遠く筑前博多、京都伏見のものなども見られ、産地によってそれぞれ特徴が見られる。信仰的なものでは天神、七福神、象徴的なものでは武将、烈女、美姫、風俗的な町娘などが主要なものである。 これらの節句人形のコレクションは人生儀礼及び年中行事に深いつながりがあり、一方民芸品としても地方の特色を有するもので、久井町を中心とした一時代の文化交流の様子がうかがえる貴重な資料といえるべきである。		関連施設: 久井歴史民俗資料館 (0847-32-7139)
県	有形民俗文化財	油木八幡神社神札用具 版木93点、雲印18点、御洗米印3点、調整具5点、版木箱1点	ゆきはちまんじんじやしんれいようぐ	120点	神石郡神石高原町油木	昭50.4.8			油木八幡神社宮司家に保管されている神札製作のための版木、雲印、調整具などである。 この神札は、当社大祭用のものから、周辺の次小神社、小祠、私祭用のものなど多種多様である。版木の材料の多くは桜木で、大は半紙大のものから、小は内符用の一寸未満のものがあり中でも十種神宝や三元加持の版木等は裏にみごとな出来ばえである。 江戸時代から明治大正に至るまでの、氏神及び小祠の諸信仰または加持祈禱の性格を知るうえで貴重である。		
県	有形民俗文化財	田尻民俗資料 1 生産・生業に関するもの 724点 2 衣食住に関するもの 243点 3 その他の用具 55点	たじりみんぞくしりよう	1022点	福山市田尻町	昭51.6.29			福山市田尻町は沼隈半島の東端にあり、瀬戸内海に面した半農半漁の生活が営まれた地であるが、収集された用具は、いずれもこの土地での庶民の基礎的な生活文化を示す資料である。 田尻の農家の経営規模はきわめて零細であったため、米麦以外に簡草(いぐさ)、棉などを作り、その加工品製造を副業とするものが多く、そのきわめて多岐にわたる生産生業に関する用具が体系的に集められている。また、漁業は農家の副業でない副業として営まれることが多かったが、浅海漁業に特徴的な漁具、釣具および網具が集められている。		
県	有形民俗文化財	隨見の若宮信仰資料 若宮神像40躯、合祀若宮木札11枚、石造若宮重宝1基、祖霊社棟札2枚、附祖霊社1棟	しなみのわかみやしんこうしりよう	62点	府中市上下町字隨見	平7.1.23	木造の立像、坐像、木札、棟札、神聖	像高/34.3cm～15.1cm	旧甲奴郡地方の若宮信仰は、亡くなった人の霊を氏神とともに祀る祖霊の信仰である。 若宮神像は、木造の立像もしくは坐像で、背部等の墨書によると享保18年(1733)から文政9年(1826)頃の間制作されている。合祀若宮木札は霊代として使われ、板に墨書したもので天保3年(1832)から大正10年(1921)に作られている。石造若宮重宝(せきぞうわかみやしんれい)は霊代で文久2年(1862)の建立である。祖霊社棟札(せらいしむねだんじ)は、氏神社の境内に建立された祖霊社の明治15年(1880)の再建棟札と明治38年(1905)の屋根葺替棟札である。 この資料は、この地方の特色ある民衆の信仰生活の様相をよく伝えている。		